

令和8年4月7日

規制改革推進会議 第7回 働き方・人への投資ワーキンググループ

日本語能力試験の在り方について

令和8年4月

外国人雇用協議会について

基本情報

設立	2016年(平成28年)4月28日
代表理事	原 英史(株)政策工房 代表取締役社長)
会員数	149社(2026年3月8日現在)
会員 <small>(一部)</small>	アデコ(株)、(株)グローバルトラストネットワークス、 (株)グローバルパワー、(株)ダイブ、(株)マイナビ、 (株)USEN WORKING、ミャンマーユニティ、 リフト(株)、(株)クレディセゾン 等(順不同)
目的	日本の言語・文化・ビジネス習慣に通じた質の高い外国人を、日本のビジネス社会で最大限に活用できる環境を整える

Mission

多様な人々を迎え入れる文化づくり

- 国籍や文化相違を超えて、多様な方を迎え入れる日本文化を醸成
- 社会の一員として責任を持って関わる外国籍の方々が”日本を選んで良かった”と思える文化づくりを目指す

役割

1. 政府の政策・制度の改善

- ✓ 有識者を交えた研究会の開催
- ✓ 政府や関係機関に対する政策提言

2. 企業側の受入れ環境の整備

- ✓ 企業向けのセミナー・研究会の開催
- ✓ 外国人の採用・教育・管理などがテーマ

3. 日本のビジネス社会に適応できる外国人材の育成

- ✓ 必要な能力評価・育成の手法の研究
- ✓ 資格・検定の開発・運用

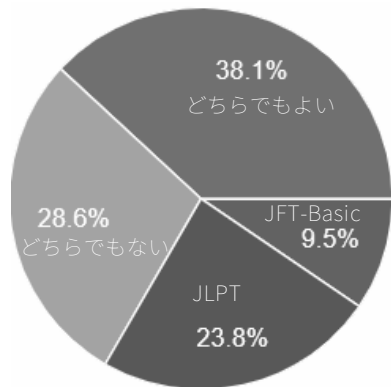
サマリ

- 多くの会員企業等が、日本語試験といえばJLPTとJFT-Basicのいずれかを推奨している状況
- また、当該会員企業等においては、B1以上の日本語能力を持つ特定技能外国人へのニーズが高い状況
- こうした状況の中で、B1以上か否かを測ることが可能なJLPTは年2回しか開催されておらず、シフトとの兼ね合いや定員超過などにより、受験機会が縮小するケースが存在している
- **育成就労制度も来年4月に開始を控え、さらなる需要が見込まれることから、JLPTについて、受験機会を増やすべきではないか**

いずれの試験の受験を推奨しているか(会員企業等へのアンケート)①

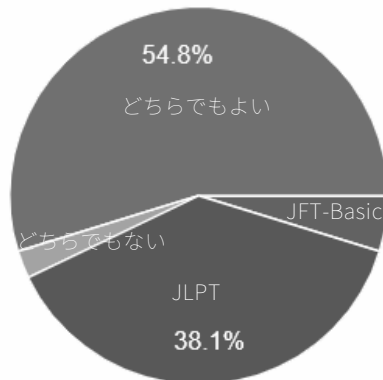
各関係者のいずれも、JLPTかJFT-Basicの受験を推奨

受入機関(n=21)



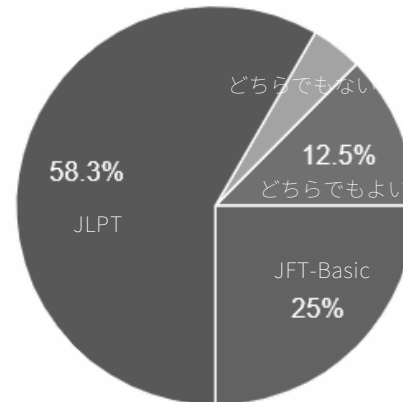
➤ 約7割がJLPT・JFT-Basicいずれかの受験を推奨

登録支援機関(n=42)



➤ 9割超がJLPT・JFT-Basicいずれかの受験を推奨

日本語学校等(n=21)



➤ 約9割がJLPT・JFT-Basicいずれかの受験を推奨

※弊協議会の会員等向けアンケートより
※「日本語試験についていずれの試験の受験を推奨しているか」という問いに対し、上の4択から1つを選択させたもの

いずれの試験の受験を推奨しているか(会員企業等へのアンケート)②

前頁の推奨理由はそれぞれ以下のとおり

受入機関(n=21)

JLPT	JFT-Basic
<ul style="list-style-type: none"> 他外国人と比較しやすいため 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施されているため
<ul style="list-style-type: none"> JLPTの方がレベルが高いと感じるため 	
<ul style="list-style-type: none"> 他の試験とレベル上同等であっても、JLPTの方が実際には日本語理解が高いと感じるため 	

- 比較が容易な点、難易度が高いという点でJLPTを推奨
- JFT-Basicについては、実施回数の多さから推奨

登録支援機関(n=42)

JLPT	JFT-Basic
<ul style="list-style-type: none"> JLPTの方が難易度が高いため 	<ul style="list-style-type: none"> 受験機会が多いため
<ul style="list-style-type: none"> JLPTを基準としている日本語学校が多いため 	
<ul style="list-style-type: none"> JFT合格で入国してきた人材の評価は非常に低く、就業レベルにないため 	

- 難易度が高い点、日本語学校の基準であるという点でJLPTを推奨
- JFT-Basicについては、受入機関と同じく実施回数の多さから推奨

日本語学校等(n=21)

JLPT	JFT-Basic
<ul style="list-style-type: none"> 日本での就職・進学における進路選択の幅を広げるため 	<ul style="list-style-type: none"> 受験機会が多いため
<ul style="list-style-type: none"> 特定技能以外の進路に変更する場合に備えるため 	<ul style="list-style-type: none"> 合否が試験後すぐに分かるため
<ul style="list-style-type: none"> 就職から進学に進路変更する際、JFT-Basicが活用できるケースがほぼ存在しないため 	<ul style="list-style-type: none"> 送り出しを想定した際、JLPTよりも早く送り出すことができるため

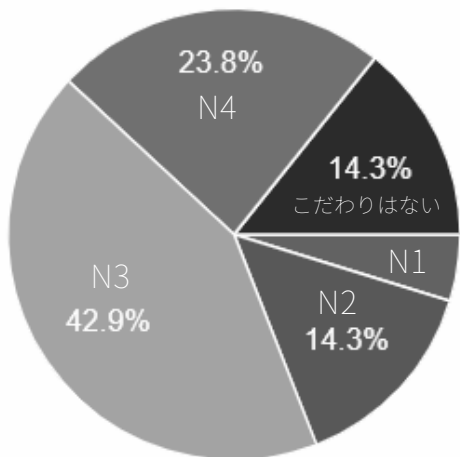
- 進路選択の幅の確保という点でJLPTを推奨
- JFT-Basicについては、合否の速さ、ひいては送り出しの速さから推奨

※弊協議会の会員等向けアンケートより
 ※「JFT-BasicとJLPTのどちらの受験を推奨しているか」という問いに対し、JLPT又はJFT-Basicを選択した者に「なぜその試験の受験を推奨しているのか」を自由記載させたもの

1号特定技能外国人に求める日本語能力(会員企業等へのアンケート)①

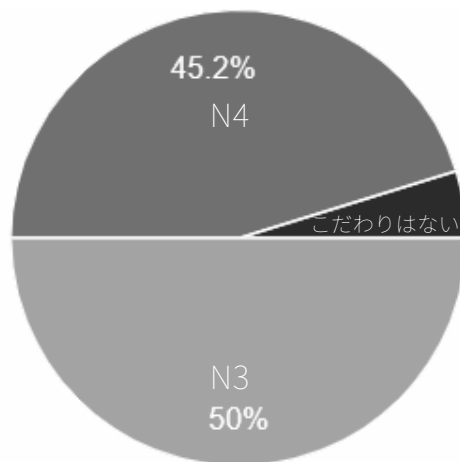
各関係者の半数以上が、特定技能外国人にN3以上の日本語能力を求めている

受入機関(n=21)



➤ 「N3」以上を求めると回答した割合は約6割

登録支援機関(n=42)



➤ 「N3」以上を求めると回答した割合は5割
➤ なお、「N2」以上を求めると回答した者は0

※「1号特定技能外国人を採用・支援する際、最低どの程度日本語レベルを求めるか」という問に対し、上の5択から1つを選択させたもの
※弊協議会の会員等向けアンケートより

1号特定技能外国人に求める日本語能力(会員企業等へのアンケート)②

前頁の推奨理由はそれぞれ以下のとおり

受入機関(n=21)

「N1」・「N2」	「N3」
<ul style="list-style-type: none">日本語での会話が難しく、外国人本人が苦勞するため	<ul style="list-style-type: none">これを下回ると、日本語でのコミュニケーションが取れない場合が多いため
<ul style="list-style-type: none">仕事における意思疎通ができず、周囲にも迷惑をかけるため	<ul style="list-style-type: none">特に介護など、人が相手の業種はN4ではリスクが高いため
<ul style="list-style-type: none">N3でもよいとは思いますが、JLPTでは話す力がわからないことから、JLPT内でも高めのレベルとすることで、ミスマッチを防ぐため	<ul style="list-style-type: none">JLPTでは話す力を測ることができないため、あえて選択するとしたN3であるが、本心ではJLPTでは測定不能だと思っている

- 求めるレベル未満では、コミュニケーションの面で支障があるという声が多い
- 特に「話す」力が不足しているという声も

登録支援機関(n=42)

「N1」・「N2」	「N3」
<ul style="list-style-type: none">選択した機関なし	<ul style="list-style-type: none">非常に簡単な日本語文章であればN4で足りるが、会話となるとトラブル発生の可能性があるため
	<ul style="list-style-type: none">仕事面だけではなく、生活面から見てもN3以上の日本語能力が必要だと感じるため
	<ul style="list-style-type: none">日本人作業員と同等の意思疎通や生産管理、品質管理、在庫管理といった部分のコミュニケーションが取れないため

- 受入機関と同じく、コミュニケーションの面で支障があるという声がある
- その他支援機関として、生活面から見てN3以上を求める声も

※1号特定技能外国人を採用・支援する際、最低どの程度日本語レベルを求めるか」という問に対し、N3以上の回答をした者に、「選択したレベル未満では、採用が難しい理由」を自由記載させたもの

生じている課題・支障

シフトとの兼ね合いや定員超過等により、受験機会が縮小

シフトとの兼ね合い

JLPTの開催日程



■ じっしび
実施日

たい かい がついつか にち
第1回 7月5日(日)

たい かい がつむいか にち
第2回 12月6日(日)

- JLPTは原則日曜日開催となっているため、外国人を100人単位で雇う企業では、全員が同一日に不在となり、シフト調整が困難
- 年に2回の日程を、前半組・後半組と分けて運用する企業もあり、外国人の受験機会にも影響

定員超過

英国の事例

12月の試験は、英国内の3つの試験会場（ロンドンSOAS大学、レスター大学、エディンバラ大学）で実施されます。出願開始日および登録の詳細については、以下のリンクから各大学のウェブサイトをご覧ください。（JLPTは非常に人気があり、各試験会場の定員に達した時点で登録は締め切られますのでご注意ください。）

- ・ 日本研究センター、ロンドン大学SOAS ロンドン大学 SOAS 応募は締め切られました
- ・ レスター大学 レスター大学への出願は締め切られました
- ・ エディンバラ大学 エディンバラ大学への出願は締め切られました

- 上は英国開催の事例だが、定員に達したため、応募・出願が締め切られている
- 国内においての事例は不明だが、試験実施案内では「応募の状況等により、隣接都府県の試験会場になるなど、希望に添えない場合があります」との記載あり

※出典:左 [日本語能力試験JLPT](#) HPより
右 [国際交流基金](#) [ロンドン文化センター](#) HPより(赤線は弊協議会で追加)

最後に

- 在留外国人数が400万人を超え、最多を更新する中、「特定技能」は37.2%増・約40万人と、在留外国人数の約1割を占めるまでに増加しており、日本の労働市場を支えている。
- また、育成就労制度の開始のほか、「外食」分野では、既に2028年度末の受入れ見込み数を超過するなど、今後も特定技能外国人の増加傾向は続く見受けられる。
- **このような状況の中で、受験回数の少なさを理由に受入企業・特定技能外国人に不利益があってはならず、特に需要の高いと考えられるJLPTについて回数を増やすべきではないか。**



jaefn 外国人雇用協議会
The Japan Association for the Employment of Foreign Nationals

